

コロナ危機 地方から

逆風に挑む

新型コロナウイルスの感染拡大を受け、大企業では設備投資を手控える動きが相次ぐ。景気の先行きに不透明感が強まるなか、需要拡大を確信して投資のアクセルを踏む中堅・中小企業も現れている。将来を見据えた設備投資で他社に先行し、成長への糸口を探るべくだ。

商機確信、勝負の設備投資

巣ごもり需要・密回避に重点

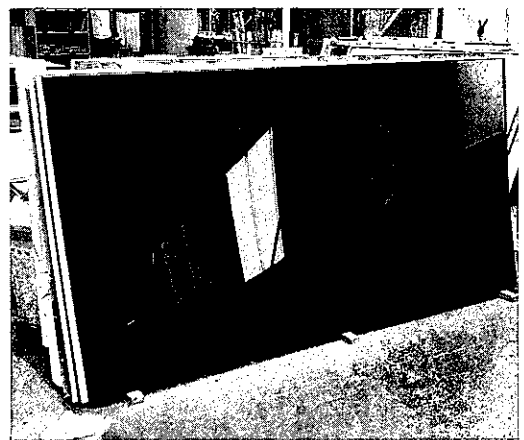
めにも機動的に増産できる体制を整えた。

「密」の回避に商機を見いだすのは兵庫県加西市の伊東電機。物流拠点や製造現場でモノを搬送するコンベヤー向けのモーター内蔵型ローラーで世界シェアの7割を握る。複雑な仕分け作業を自動化できるシステムに対し、作業員の密接を防ぎたい国内外の現場から注文が相次ぐ。

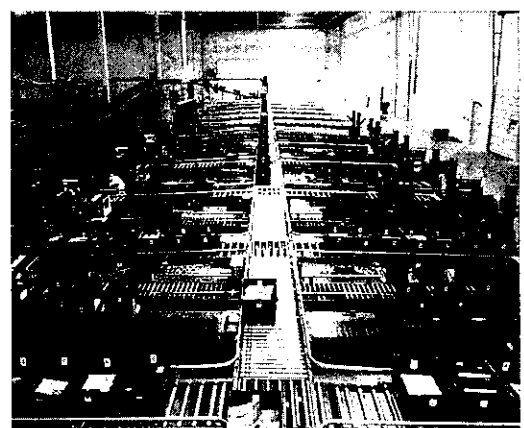
国の緊急事態宣言解除後も前年比で増加基調が続く。飲食店向けなど業務用は減っているが、家庭用の伸びで「全体ではトントン」(土居幹治常務)。今後の感染状況によっては外出自粛ムードが高まる可能性もあり、需要取りこぼしを防ぐためにも機動的に増産できる体制を整えた。

「巣ごもり需要」を取り込もう。削り節大手のマルトモ(愛媛県伊予市)は主力商品群「かつおパック」の生産能力を2割増強した。伊予市内の2工場で5億円強を投じ、外袋の自動包装ラインを増設。7月に本格稼働した。

コロナ感染拡大が続く4月、約10億円を投じて加西市内の工場拡張に着手。2020年4〜6月の売上高は前年同期と同水準だったが、7月は1.5倍に急伸した。特にコロナ禍にあえぐ米国の引き合いが強く、出荷増に備えて生産体制を整備を進める。港湾物流の鈴江コーポレーション(横浜市)は医薬品の原材料など液体の危険物専用の倉庫新設に着手する。新型コロナウイルス流行を受け、高濃度アルコールの備蓄需要が高まっているのに対応する。日本政策投資銀行によると、20年度の国内設備投資は9年ぶりに前年度を下回る可能性が高い。景気の先行きに不安を感じ、企業が多いなか、あえて設備投資のアクセルを踏むにはコロナ禍でも自社の製品やサービスが生き残れるとの確かな見通しが不可欠だ。



アベルの漆黒ステンレス材は高級車などに採用されている



複雑な仕分け作業を自動化できる伊東電機のシステムは米国の物流拠点でも活躍している

年内に着工、22年に稼働する予定で、投資額は年間の売上高に匹敵する。設備増強に挑む。

同社はステンレスを高級感のある漆黒に発色させる技術が強い。漆黒ステンレスはトヨタ自動車のレクサス、東京スカイツリーや虎ノ門ヒルズの内装にも採用されている。「同じ色を出せる企業はほかになく、たとえニッチでも需要は大きい」と居相浩介社長。新工場完成で生産能力を現在の2〜3倍に高める。コロナ禍という未曾有の危機のなか、積極的な設備投資に踏み切るのはリスクを伴う。アクセルとブレーキをどう踏み分けるか、危機の先を見据えた冷静な経営判断が求められる。

九州新幹線、利用客72%減

お盆期間 航空各社も大幅減



幹線ホーム(15日午前)

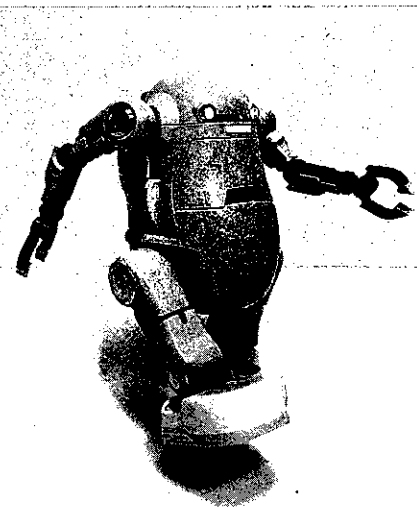
JR九州は18日、お盆期間(7〜17日)の九州新幹線と在来線特急の利用客が前年同期比71.9%減の約25万人だったと発表した。新型コロナウイルスの感染拡大で帰省や旅行を控える動きが広がり、同社が発表した1987年以来、最低だった。航空各社の利用者も前年を大幅に下回った。九州新幹線の利用客は博多〜熊本間が上り・下り合わせて72.2%減の約12万人、熊本〜鹿児島中央間は72.0%減の6万人。在来線特急は71.6%減の12万8千人だった。国の旅行需要喚起策「Go To Travel」の効果は限定的で「例年はお盆になると帰省客が増えるが、今年は7月の休日と変わらず、低水準だった」(運輸部輸送課の成松宏樹課長)。

JR西日本が運行する山陽新幹線で、関門海峡を通過した利用客数も75



九州大学のスタートアップ、リビングロボット(福島県伊達市)は、2020年度から小学校でプログラミング教育が必修化されたことを受け、学習用の二足歩行ロボットを開発した。本社は生産拠点のある福島県に置くが、主力の開発メンバーはロボット技術に詳しい九大大学院の倉爪亮教授(福岡市)に常駐する。川内康裕社長は「ロボットを通じて、子供の可能性を広げたい」と話す。

二足ロボ、複雑な動き強み



福岡県内の小学校の授業で使われる二足歩行ロボット「メカトロウィーゴ」(©小林和史/講談社)

生み出したキャラクター制御ソフトには比較的に簡単な操作ができる。二足歩行ロボットは学習用ロボット開発のため、ライセンスを取得した。ロボットの大きさは約13センチ。頭に照度センサー、目にカメラ、腹部にも、狙い通りに動くには距離センサーを内蔵する。肩や大腿部、足首などにモーターを搭載し、複雑な動きを実現する。誤差が出ることも多く、

リビングロボット

(福島県伊達市)

九大発、小学生学習用に開発

その場合は改めて修正を指示する。川内社長は「ロボット一体に個性がある。誤差を修正するなかで開発の奥深さを感じてほしい」と話す。設立は18年。シャープでスマートフォンなどを開発していた川内社長ら4人で創業した。シャープ時代に取引のあった電子機器メーカーがある伊達市で生産を委託する。創業前にロボット研究を通じて知り合った倉爪教授をアドバイザーに招き、九大伊達キャンパスにラボを構えた。技術「競合に先行し、存在感を高めたい」と話す。倉爪教授とは施設内を移動して案内する小型ロボットの開発中。日本版「みちびき」を利用し、ハウステンボス(長崎県佐世保市)で実証実験した。それぞれ今年中に小学校高学年などの授業で利用される見込みだ。(北九州支局長 山田健一)

ミズホメディ

コロナ検査キット発売

全工程自動 短時間で判定



体外診断薬メーカーのミズホメディは19日、新型コロナウイルスの感染の有無を唾液などから短時間で判定できる検査キット「写真」を発売する。同社は全国の医療機関に既に販売している。検査では、唾液や鼻の粘膜から抽出した試料をたらいしたテストカートリッジを装置にセット。スタートボタンを押せば自動で測定し、検査結果が印刷される。テストカートリッジは5回用で税別4万円で発売する。

人事 (地名は支店名)

親和銀行 (8月17日) 佐世保 徳永徳雄

・3%減だった。日本航空(JAL)の7月16日の福岡〜羽田便の旅客数は69.2%減の2万7千人だった。沖縄県で感染が再拡大し、福岡〜沖縄便は91.0%減となった。全日本空輸(ANA)の福岡〜羽田便は3万4千人で70.2%減、スターフライヤーの総旅客数は1万5千人で69.2%減だった。

西日本高速道路九州支社によると、7月16日の九州管内の主な高速道路の交通量はピーク時で前年比35%減。鉄道や航空機に比べ、感染リスクが低いマイカーで移動する人が多かったようだ。

CIC 太陽光・水素で未来を先取り

長州産業

支局 西部編集局 0992-4771-3334 0993-5771-3334 0995-2123-4597 0995-1822-1170 0997-5332-1478 0996-3533-0809 0998-1822-1275 0999-2222-1232 0998-8622-10148

宮崎 0995-222-2754 鹿儿岛 0999-222-1232 那覇 0998-8622-10148